

# 特殊撮影史における日本特撮の独自性

江森 航一

## 【要旨】

本論では、主に映画撮影に用いられる特殊撮影の歴史を調査し、その技術的発展を明らかにした。また日本独自の特殊撮影技術が定着した理由や、現代における特殊撮影のあり方について考察した。第1章では特殊撮影の基礎的知識とその代表的な技術について概説した。第2章から第4章では、特殊撮影が誕生した19世紀末からその技術がCGに置き換わる20世紀末までの技術的変遷を特殊撮影の発展に貢献した人物の作品を通して示し、特に特撮技術の神様と称される円谷英二の業績を科学技術史的観点で再評価した。第5章では海外と日本における特殊撮影史を比較し、日本独自の特殊撮影技術である着ぐるみ撮影等が日本で誕生し発展した理由、日本の特殊撮影が海外に与えた影響、日本がCG開発に出遅れた理由を分析した。そしてCGが一般化した現代においても特殊撮影技術を用いた成功事例をもとに現在あえて特殊撮影を用いることの意義やその新たな可能性について提言した。

## 【講評】

膨大な情報を整理しつつ技術史研究の目的を達成し、有益な結論を導いた論文である。第1章でこの分野の基本的概念を押さえ、この分野に馴染みの薄い読者にも以降の章が読みやすくなるよう工夫が凝らされている。第2章では海外における特殊撮影の歴史をたどり、以降で扱われる、日本における特殊撮影の独自性を、海外との比較によって際立たせている。歴史的事実の羅列ばかりでなく、筆者の考察、例えば2021年夏に公開予定の「シン・ウルトラマン」の怪獣に対する懸念を述べているところなど、無味乾燥となりがちな内容に潤いを与えている。